

全国初 自治体による紙おむつの分別回収を開始！

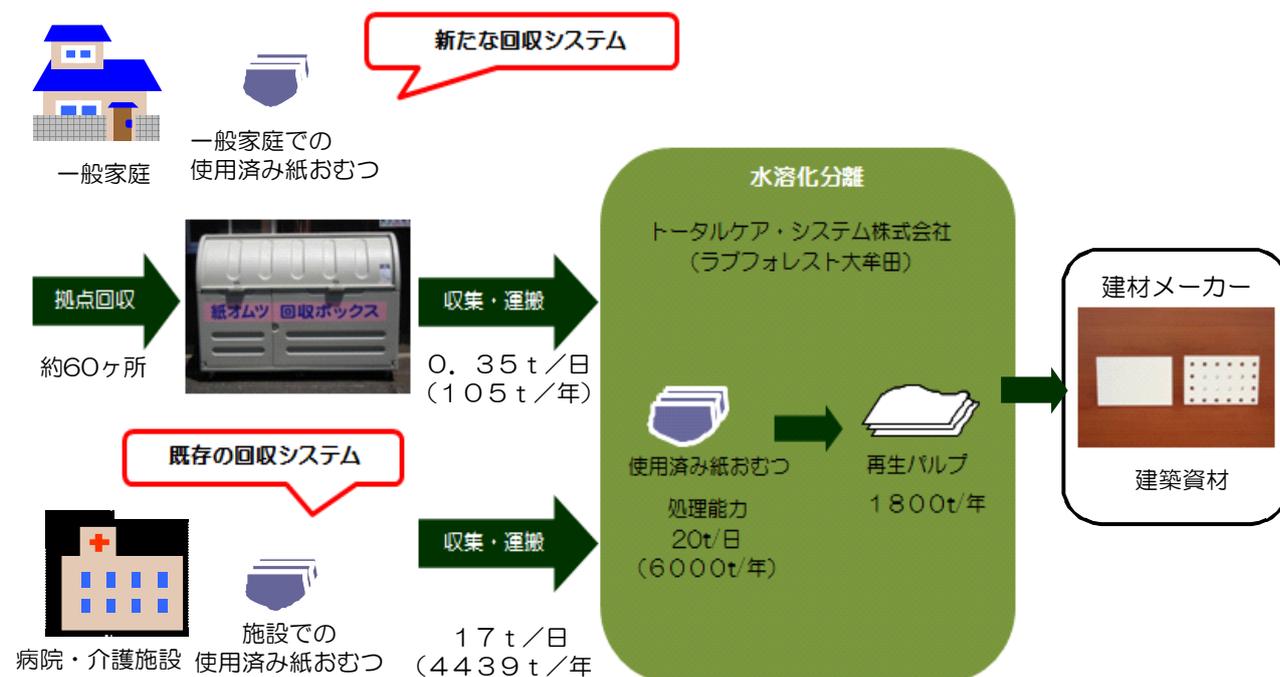
メーカーも参加。家庭からの紙おむつが資源に

10月1日から、大木町において事業化

- 高齢者人口の増加により紙おむつの使用量・排出量は増え続け、紙おむつの処理は市町村の大きな負担となっています。病院などの事業所から排出される紙おむつについては、リサイクルの取り組みが始まっていますが、家庭から排出される紙おむつについては、回収コストが課題となり、取り組みが進んでいません。
- リサイクル総合研究センターでは、大木町、トータルケア・システム(株)等との共同研究により、家庭からの紙おむつを回収・再生利用するシステムの構築を進めてきました。その実用化に目途がついたので、10月1日から大木町において、全国で初めて、家庭から排出される紙おむつの分別回収を公民館など町内約60カ所で開始します。
- また、紙おむつメーカー5社が回収ボックスの設置に協力することとなりました。メーカーから消費者、自治体が一体となった取り組みは、全国初の社会システムとして期待されます。
 - ・ユニ・チャーム(株)
 - ・リブドゥコーポレーション(株)
 - ・日本製紙クレシア(株)
 - ・大王製紙(株)
 - ・ユニ・チャームメンリツケ(株)
- 大木町(人口 14,529 人)において家庭から排出される紙おむつは、年間117tと推定され、事業開始当初は42%程度の回収を見込み、最終的には90%にあたる105tの回収を目指します。この量は、大木町が焼却処理するごみの約10%にあたります。
- 回収された紙おむつは、水溶化処理し、再生パルプとして耐火ボードなどの建築資材に再利用されます。従来の焼却に比べて約4割、CO2を削減することができます。
- リサイクル総合研究センターでは、今後、大木町での事業実績を踏まえ、他自治体への普及を図っていきたいと考えています。



【システムの概要】



【共同研究の概要・成果】

大木町のモデル地区における紙おむつの分別回収実証実験により、以下のことを確認し、拠点回収方式での事業化を決定。

- ✓ 公民館などに回収ボックスを設置する拠点回収方式は戸別ルート回収方式に比べ、コストを約35%に削減できる。
- ✓ 回収物は、リサイクルプラントに支障のある異物が少ない。
- ✓ 夏場、収集場所に1週間程度保管しても臭気は問題にならない。
- ✓ 拠点回収方式は、持参の手間がかかるものの、いつでも排出でき、近所の人に知られないなどの住民メリットがある。

◆ 共同研究のメンバー等

- プロジェクト名称 「福岡発紙おむつリサイクルシステムの確立」
- 研究期間 平成20～22年度(3年間)
- 研究開発の目的
紙おむつリサイクルシステムを確立するため、「家庭からの紙おむつ回収システムの構築」と「処理システムの改善による処理効率の向上」を目指す。
- 研究メンバー
 - トータルケア・システム(株) : 水溶化処理システムの効率化検討(実証試験)
 - 大木町 : 家庭からの紙おむつ回収システムの検討
 - 福岡県保健環境研究所 : パルプ及び高分子吸収材の含有量分析法の検討
 - 福岡県リサイクル総合研究センター : 研究開発のコーディネーター

(関係者連絡先)

- ・福岡県リサイクル総合研究センター(北九州市若松区) TEL:(093)695-3068 担当:川原、田村
- ・大木町役場 環境課(大木町横溝 環境プラザ内) TEL:(0944)33-2202 担当:益田、境